

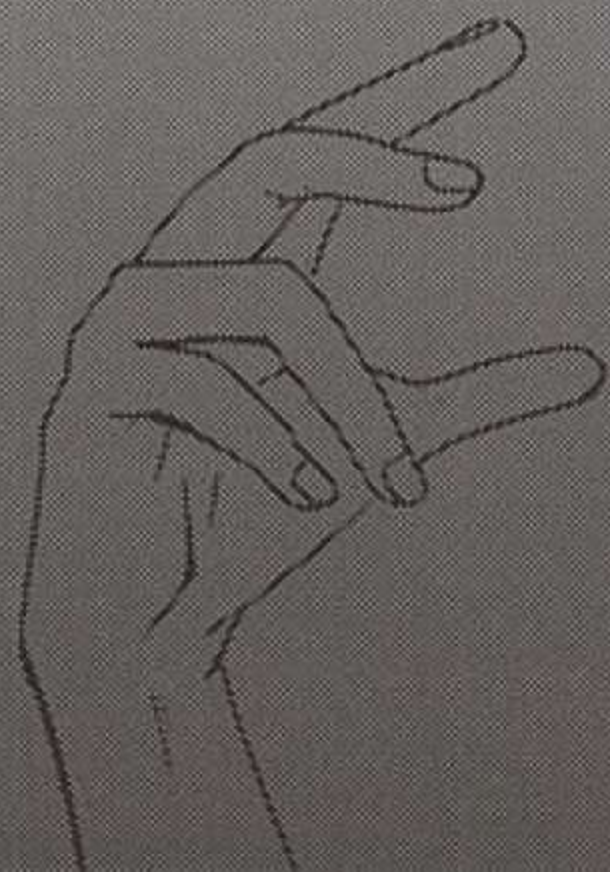
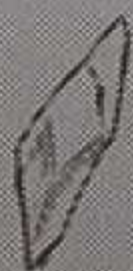
R18



ARMONIOUS 4



落ちる



底の見えない空へ落ちていく

手を伸ばしても

泣き叫んでも

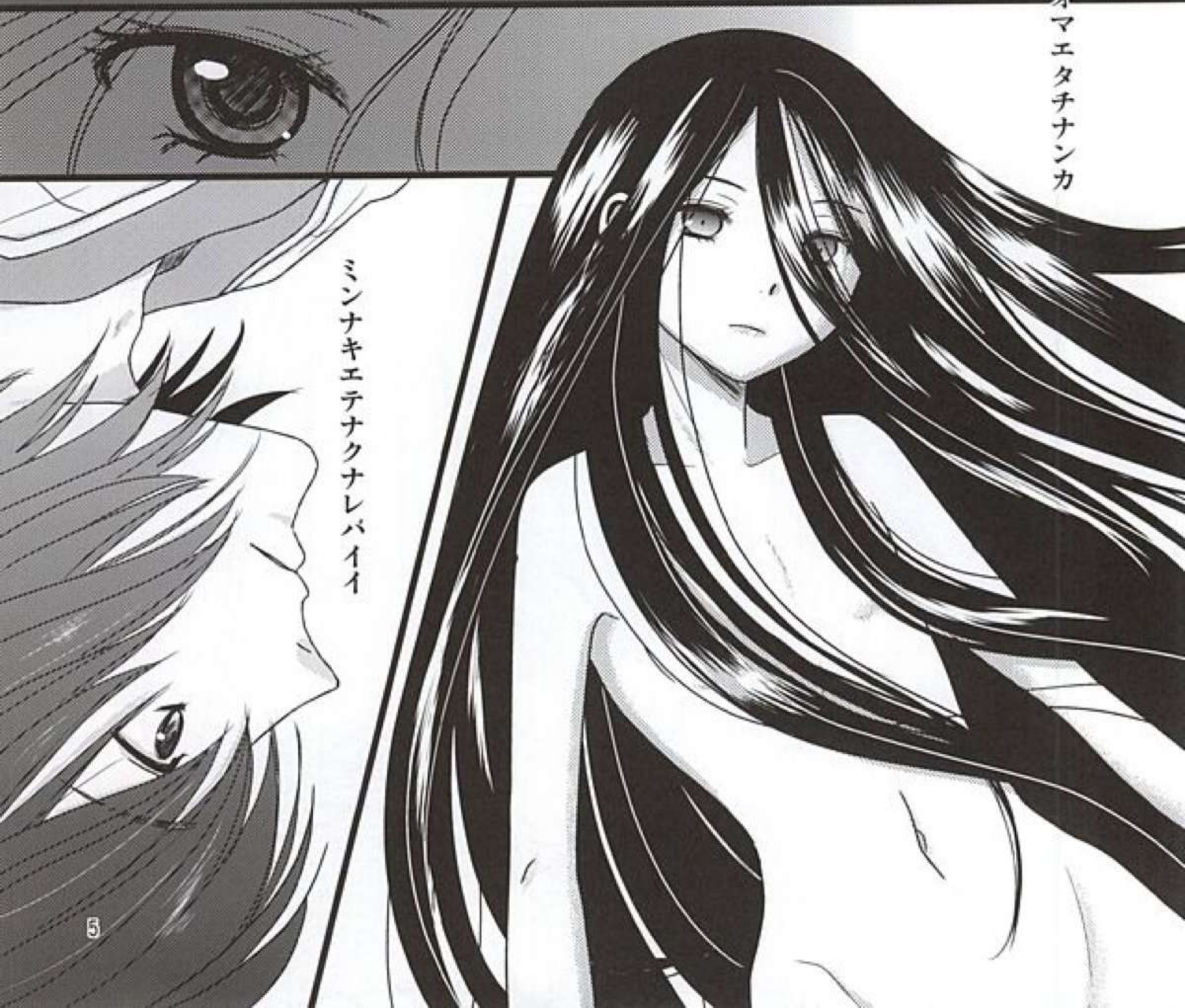
誰も助けてなんてくれない

ただ悲しみと絶望の中へ
落ちていくだけ



オマエタチナンカ

ミンナキエテナクナレバイイ





あなたにも
客観的な事実を
知ってほしい



私が何をしたのか

私がした事で
世界がどうなったのか

—ソル・シエール史？



ミユール……



……ん



誰が君を裁いて

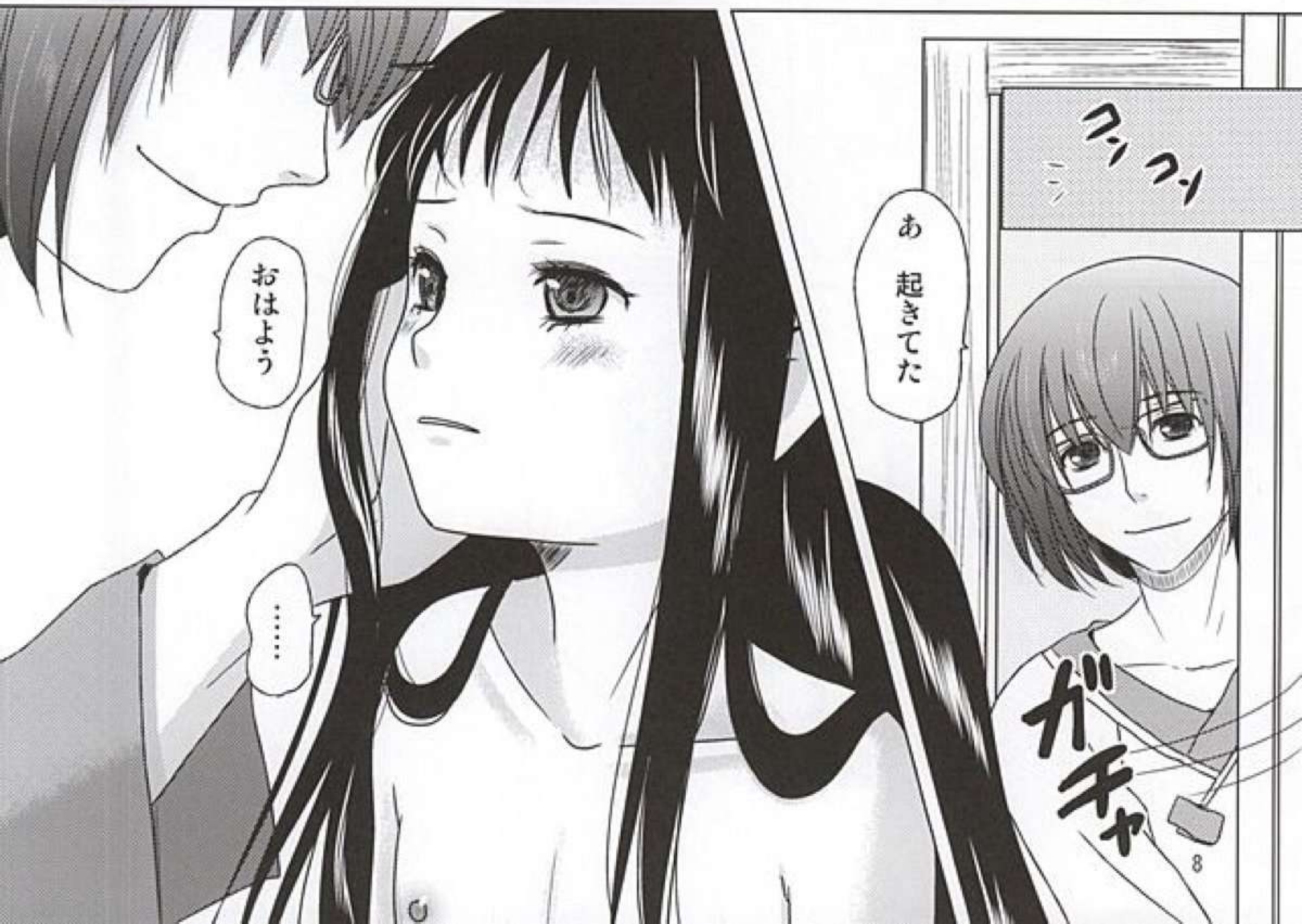
誰が君を赦すんだ……？



私はクロアにどうして
もらいたかったの……？

結局……

馬鹿みたい……
私……



おはよう

あ 起きてた

クワッ

ガチャ



ほら
シーツ洗濯するぞ

……ん……

?
どうした?

……別に……
何でもない



昨日のことが全部夢だったみたいに

クロアの態度はいつもどおりで

もっと激しく動揺したり
いっそ最低な人殺したと罵ってくれれば――

それで……なんなの？

そしたら私は満足するの？

私のコスモスファイアを見て

私の犯した罪を知って

それでも私を全部受け入れると……

逃げたりしないと
クロアは言ってくれたのだ……

フ・ン・ン

クロアくん
今日の朝ごはん……

チヤヤ……

私は何度同じ場所を行ったり来たり
繰り返しているんだろう



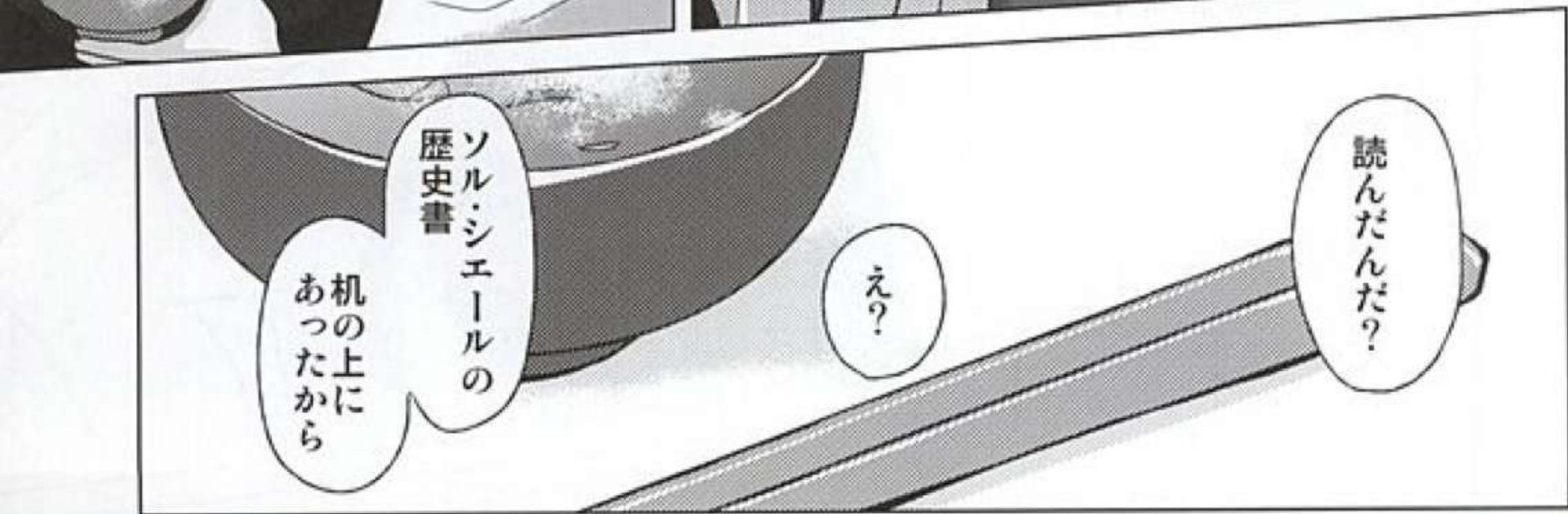
あれ？
ミユールは？

眠いからあとで
食べるって

二度寝か……



ーソル・シエール史……



読んだんだ？

え？

ソル・シエールの
歴史書

机の上から
あったから



ミユールはどう言う
つもりであの本を俺に
読ませたんだろう

ん？



ミユールは……

別に俺を試してるわけ
じゃないって言われたけど……

無理しなくていいとか
逃げてでもいいとか言われるし

今朝も何も気にしてない
フリしちゃったけど

実際のところ
俺にどうしてもらいたい
んだらうって……

あ 悪い
こんな事アヤタネに
訊くものじゃないよな

僕の事信頼して
くれてる証拠だ
って思っておくよ

母さんはなかなか
本心言わない人だ
けどねでも嘘を
言ってるわけ
でもないと思うから

うん……

何となくだけどね

僕には混乱して
るように見えるんだ

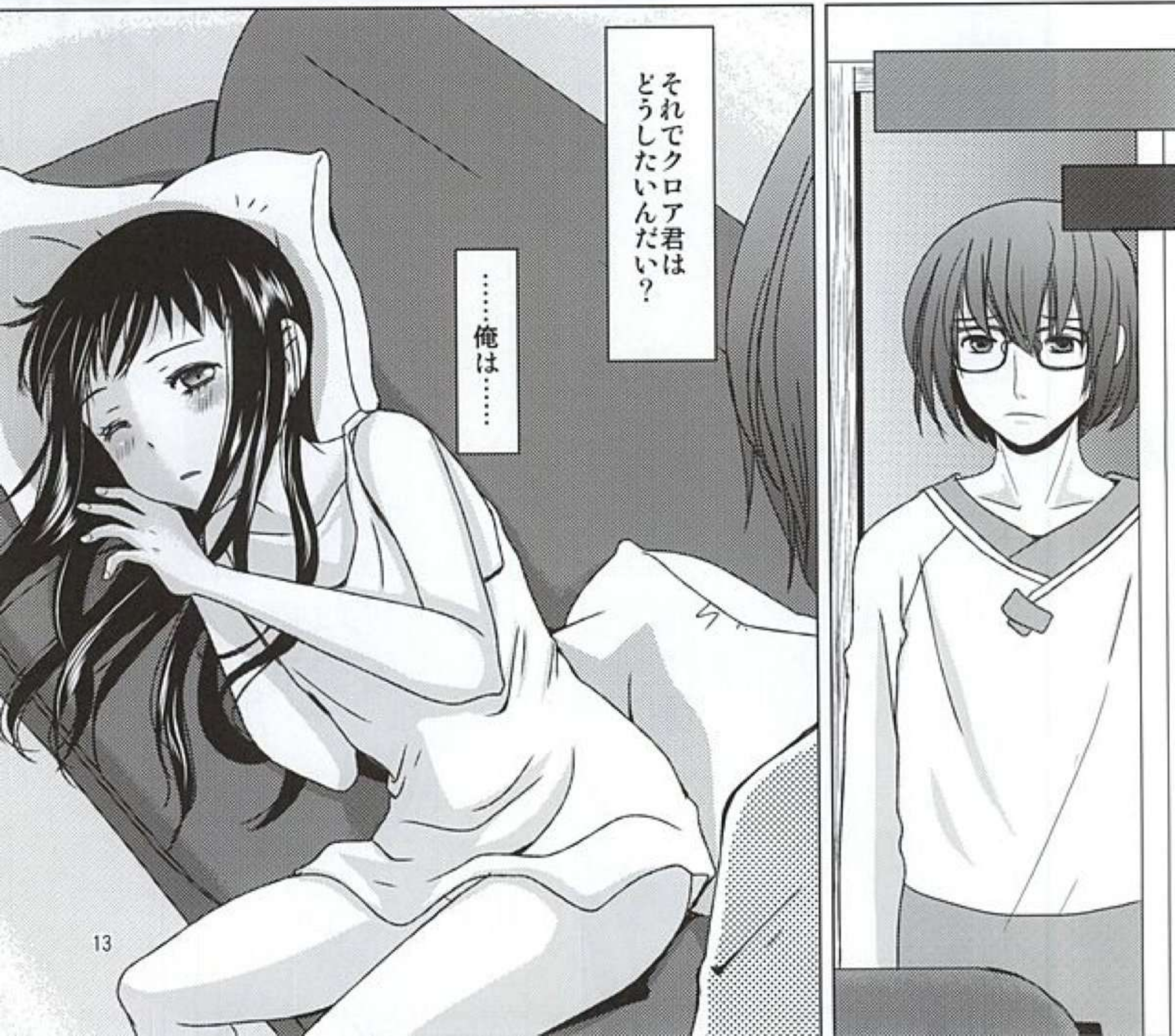


本当はクロア君も
分かってるんじゃないかな？

何だよそれ

混乱？

簡潔に言えば
クロア君の事が
大好きだから
困ってるんだね



それでクロア君は
どうしたいんだい？

……俺は……



俺はただ

君と同じ明日を
生きたくて



俺には何もできないのは
わかってるけど

一緒に作ると楽しいね

少しでも君の心に
寄り添いたくて



……冗談よ
お昼から用も
あるし起きるわ



えーとあ
……



……あなたが昨夜
激しかったから
まだ疲れてるの

二度寝してると
また夕方になるぞ



何か変ね
私……

?



そ そうか……
ならいいんだけど

……何か……



ミュールのやる事が
全部終わったなら

……いつかさ



帰りたくもないところ
に帰ってきたせいかしら

何だかずっと
イライラしてるみたい



一緒にメタファリカに
遊びに行こう

また皆に
会いに行こう



……もう帰り
たくなつた？

そりや帰りたくない
言つたら嘘になるけど
その時はミユールも一緒だぞ



……今ね
シュレリアと
塔間ネットの
整備を始めてるの

設備が整えば
メタファースとも通信
できるようになるし
交流も始まると思うわ

そしたらあなたも
少しは寂しくなく
なるでしょ？



……うん
ありがとう

あ
別に今寂しいなんて
思つてないからな！

だから無理
しなくていいって
言つてるでしょ

それはお互い様
だと思ふけど



……なあミユール

ああそう……

さつき
決めたもの

随分急だな

……と言うわけで今日から
その関係でシュレリアの
ところに行ってくるわ
2、3日お留守番
よろしくね



人の心みたいなの
脆くて儂いものに縋ろうとするなんて

俺の気持ちには
変わってないから

……



あなたの存在が私の中に
深く深く食い込んでいくことに

私の城壁がひび割れていく



—それで
近々天覇の技術者を
派遣して……



気をつけてな

ニンゲン達だって
ミュールと言う罪悪を赦すわけない



ニンゲンなんて大嫌い



もう……さつき渡した資料に塔間ネット整備計画の詳細は全部書いてありますから

帰ったらちゃんと読んでおいてくださいいね

あなたの協力が必要なんですからしやきっとしてください!



……ミユール聞いてますか?

え? 何?



……そうかもね……



はいはい

……ミユール最近ずっとヘンですよ昨日もずっとうわの空で



何かあったんですか? 具合でも悪いとか

別に何となく気分が乗らないだけ

何もないならいいんですけど……

……ねえあれから何か変わったことあった?



変わったこと……

先日のバイナリ野のことですか？

そうですね……
私はあれから2回
塔の中で迷いました

それは関係ない現象
だと断言するわ



うう……
修復するからちやんと
教えてください……

修復はして
おいたわよ
ただ……



ただ？



何で勝手に侵入
するんですか！

一応アヤタネにも軽く
覗いてもらったんだけど
やっぱり何も見つからなくて

そりや穴があつたら
入ってみたくなるのが
人情ってものよ



……分かりました
私も引き続き調査を
継続します



今までなかった穴だから
やっぱり何か内部に
いるかも知れないわ



そうですね
その時はまた
お願いします

何ならアヤタネ
貸すわよ

デジタルの領域
ならあの子の方が
自由に動けるし



これでもう用は
済んだわね

じゃあ私帰るから

そうだ
先日フレリアから
あなたのことを聞きましたよ

フレリア?

はい

メタ・ファルスではあなたに
随分助けてもらったと
とても喜んでいました

お礼が遅くなりましたが
妹とメタ・ファルスの人達に
協力してくれてありがとう
ミユール

……いつか新大陸に
行ってみるといいわ

大きくはないけど
結構良いところよ

ただいま



クロ……



……ん……？



……あれは特別よ
今のだって似たような
もんだし別にいいでしょ



子守唄なら前に
謳ってくれた
詩の方が嬉しい
んだけどな

起きちゃった？
子守唄のつもり
だったんだけど

ただいま

……ソドマに謳った
詩たるそれ……
おかえり



ああ
明日は休みだから

何かあるのか？

あの本
返しに行くから
付き合って

もう読み終わった
でしょ？



……ねえ

クロアは明日ヒマ？

いや全然
違うだろ……



……
まだ読み足りない？

……あの本

俺あんまり
好きじゃない



そりやただの記録だもの
面白いことが書いてある
わけでもないし

……ミユールがした
事は書いてあるけど

ミユールがされた事は
何も書かれてなかった



.....
あなたが私を想って
くれるのは.....

その.....
嬉しくないわけ
じゃないわ.....



.....ニンゲンには
必要のない情報だから
書かれてないのよ

同情は不快だわ

前にも言ったでしょ



でもあなたは
ソル・シエールの
歴史を知らないから.....

.....うん



あなた自身のためにも
.....ちゃんと知って
ほしかったから.....

.....この地での私は
忌むべき存在.....

恐怖や憎しみの
対象でしかないの.....

だから.....



……ずるいわ……

そんな謝り方……



……ごめん

信じてほしいって
言いながら不安に
思わせてたんだっ
俺の努力不足だ
たら



前にも言ったみたい
に

どんなに近くに居
たって
俺たちは他人同士
だから

何もかも分かり合
う
ことは無理だけ
ど

分かり合うための
努力は
できると思うんだ



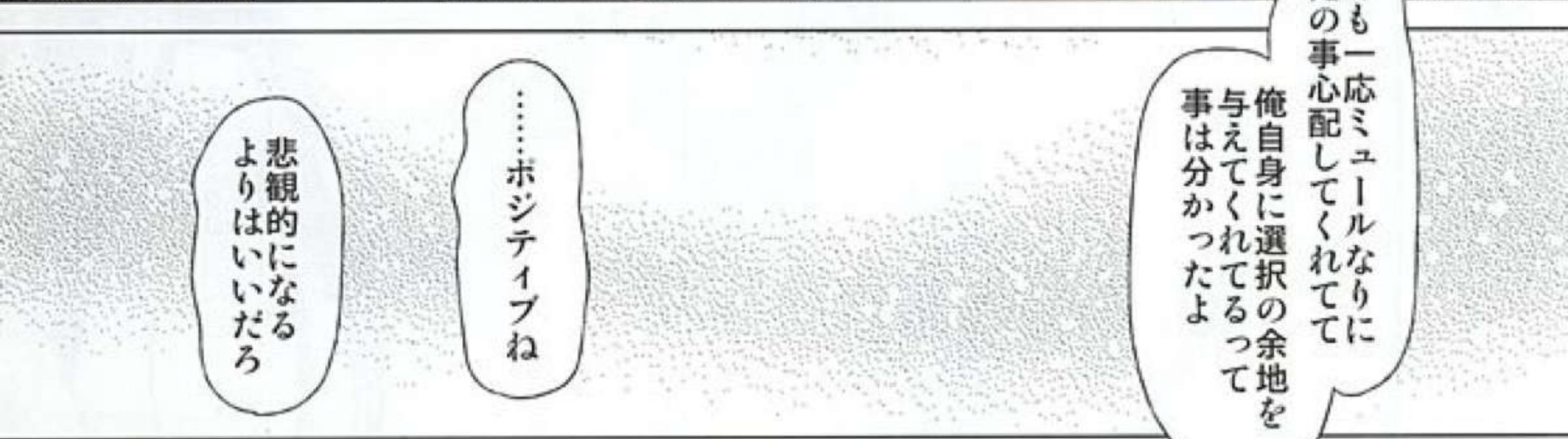
……ミュールはさ

嘘はつかないけど
本当に大事なことも
言ってくれないから



1人で勝手に思い込んで結論付けて終わらせようとしないでくれ

……



でも一応ミュールなりに俺の事心配してくれて俺自身に選択の余地を与えてくれてるって事は分かったよ

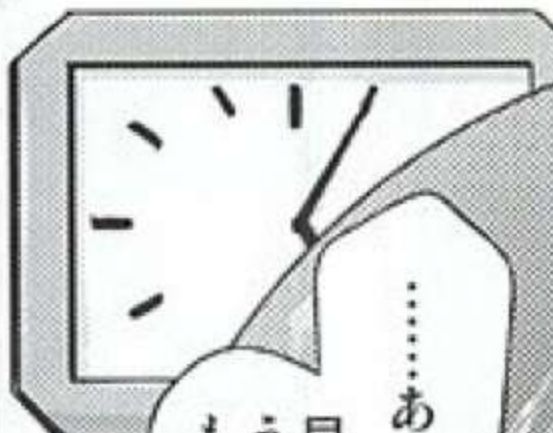
……ホジタイプね

悲観的になるよりはいいだろ



もう帰ってるんだけどね……

そろそろアヤタネも帰ってくるし夕飯作らないとなんっ



……あ
早帰りだったのにうたたねしてたらもうこんな時間だ



私の心は今まで知らなかった
喜びに満たされると同時に

散り散りに引き裂かれるような痛みを覚えるの



んあっ……



あ……ッ

あんっ

あなたの想いに触れるたび

ズン
ズン
ズン
ズン





だったらいんだけど

……大丈夫よ
嫌ならしないわ

でもミュールに
無理させるのは
いい気分しない

気持ちいいよ

気持ち良く
ない……？

んっ……

……ミュール
キツイんだったら
無理しないでいいんだぞ

カッ

キツッ
キツッ

私に優しくしても
何のメリットもないのに……

……クロアは
優しいわね

キツッ……



そうね……
戦争にでもなったら
また話は別だけど

世界最強の
レーヴァテイルが
パートナーなら
英雄になれるわ

ミュール……



……本当にそう
思ってるのか？

……
それは……



君は戦争のための
兵器じゃない

……



打算で接してる
わけじゃない

それに

あ……

グッ
グッ
グッ



普通の基準が
分からないし

普通じゃない私に
付き合えるならあなたも
普通じゃないわね

……訂正
ちよつと普通じゃない

……

それもそうだな



あッ

あ

「好き」と言う感情から生まれてくるんだらう

ジュッ
ジュッ

ジュッ
ジュッ



……好きだよ
ミユール

……ん……

きつとこの苦しい気持ちは

キッ





頭の中で「誰か」がずっと叫んでいる

いつか

怒りや憎しみに任せて

あなたを傷つけてしまう
ような事があったら――

人が多い場所は
疲れるわ……

どこかでお茶でも
飲んでいこうか？

早く帰りましょ

本も返したしもう
用は済んだじゃない

せっかくちやんと
オシヤレしてきたも
もう少しゆっく

だからこの服は
アヤタネが勝手に
買ってきたもので
私は別に……

ミーウーちゃん！



オリカ

二人とも久しぶり！
何なに？デート？

大声で呼ばないでよ
恥ずかしい……

荷物持ちに付き合っ
てもらっただけよ

ふーん

そんな可愛いカッコ
しちやってるのに
デートじゃないんだー



うるさいわね！

オリカも珍しい
格好してるな

これ？
あたしの故郷の服なの
可愛いでしょ？



このカッコでオルゴールの
売り込み行くと結構興味
持ってもらえるんだよ

へー
じゃあ今も仕事の
途中なんだ？

うん さっきまで
お姉ちゃんのお店で
実演販売してたの

でも酔っ払いに絡まれて
大変だったよお

たまたま教会の騎士が
来たから助かったけど

あなただったらそんなの
簡単な詩で一撃でしょ

そりやあたしが謳えば
すぐ終わると思うけど
街の中で許可なく魔法は
使っちゃ駄目って決められてるから

あなたも元は教会所属の
レーヴァテイルでしょ？

それに最高権威の
ラードルフがいるじゃない

教会のレーヴァテイルでも
騎士隊の指示がなければ
謳っちゃ駄目なの
すっごい不便だけど
決まりだから仕方ないんだ

それにあたし達が何かの
やらかしてラードルフの
耳に入ったらますます
老けちゃうし

人間にしか決定権が
ないなんて馬鹿にしてるわ

それだけレーヴァテイルの力は強大で

力のない人間にとっては脅威なんだよ

優れたレーヴァテイルなら一人で一個師団を簡単に壊滅させられるくらいの力を持つてる

人間は自分達よりレーヴァテイルの方が力があると分かっているから……

どこかに畏れの気持ちがあるから……

だから厳しい決まり事を作って無意識のうちに自分の身を守ろうとしてるんだ



クロアが謝る事ないよ

この街でみんなが仲良くやってくために大事な事だって分かってるから

あたしたちは全然大丈夫!



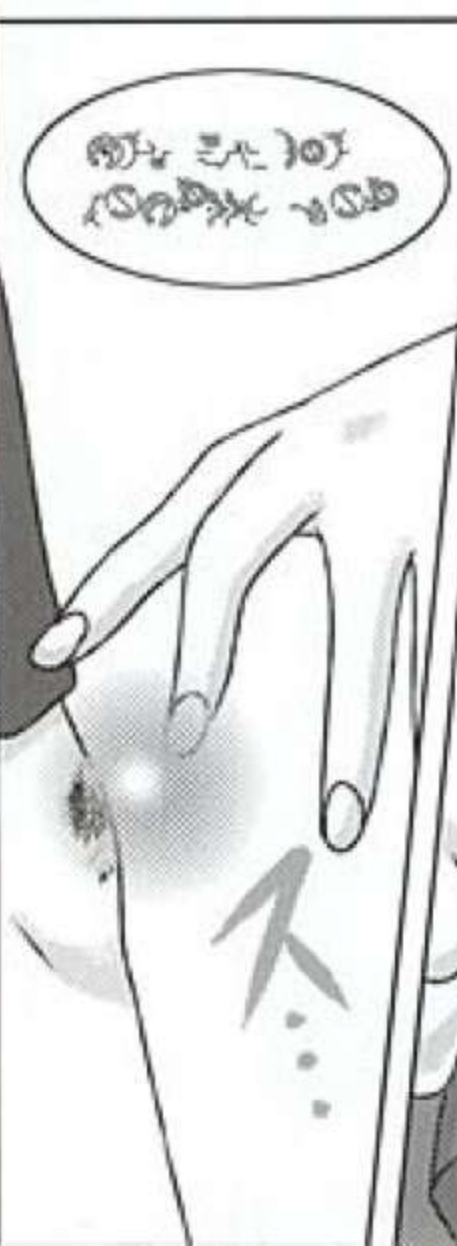
……クロア……

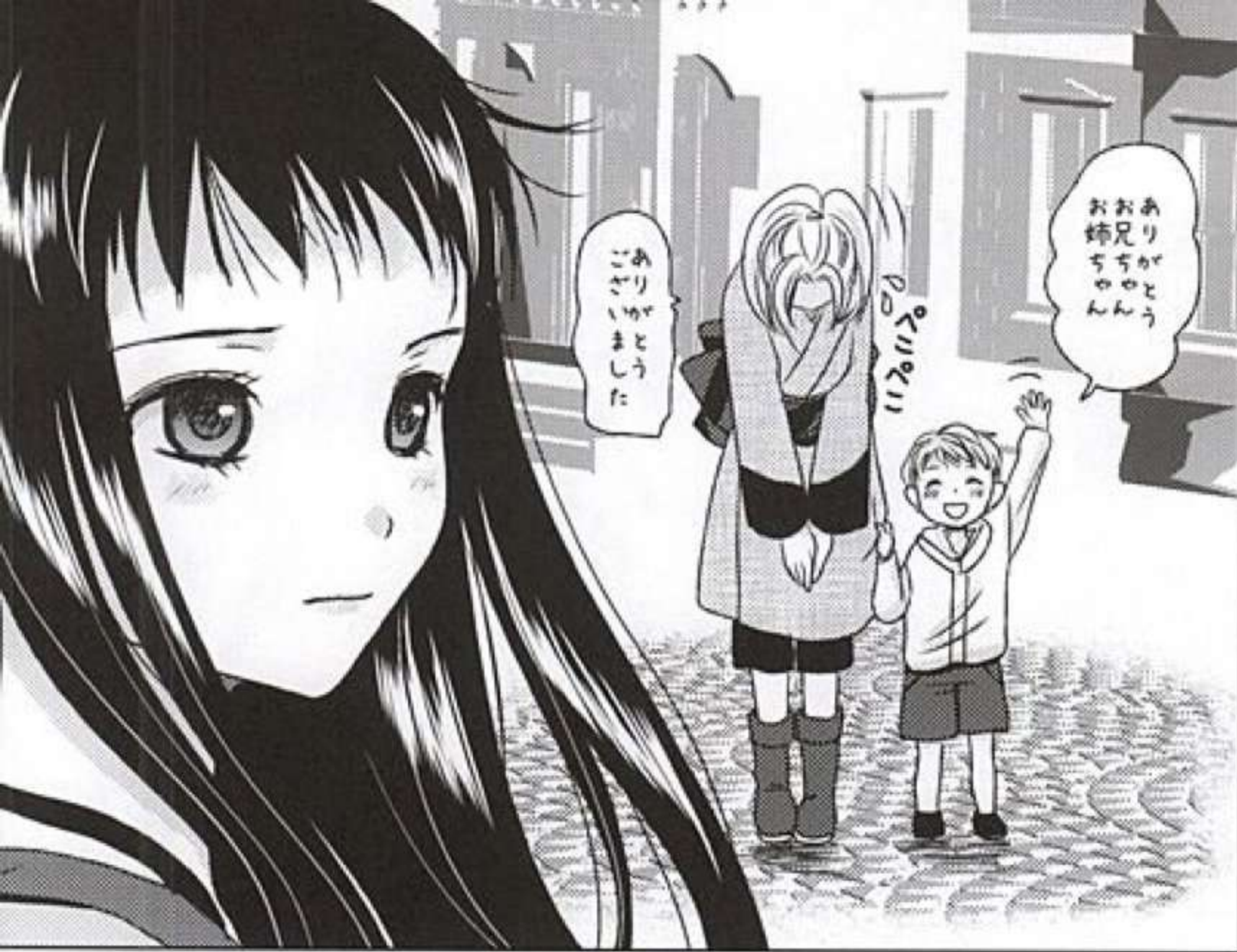


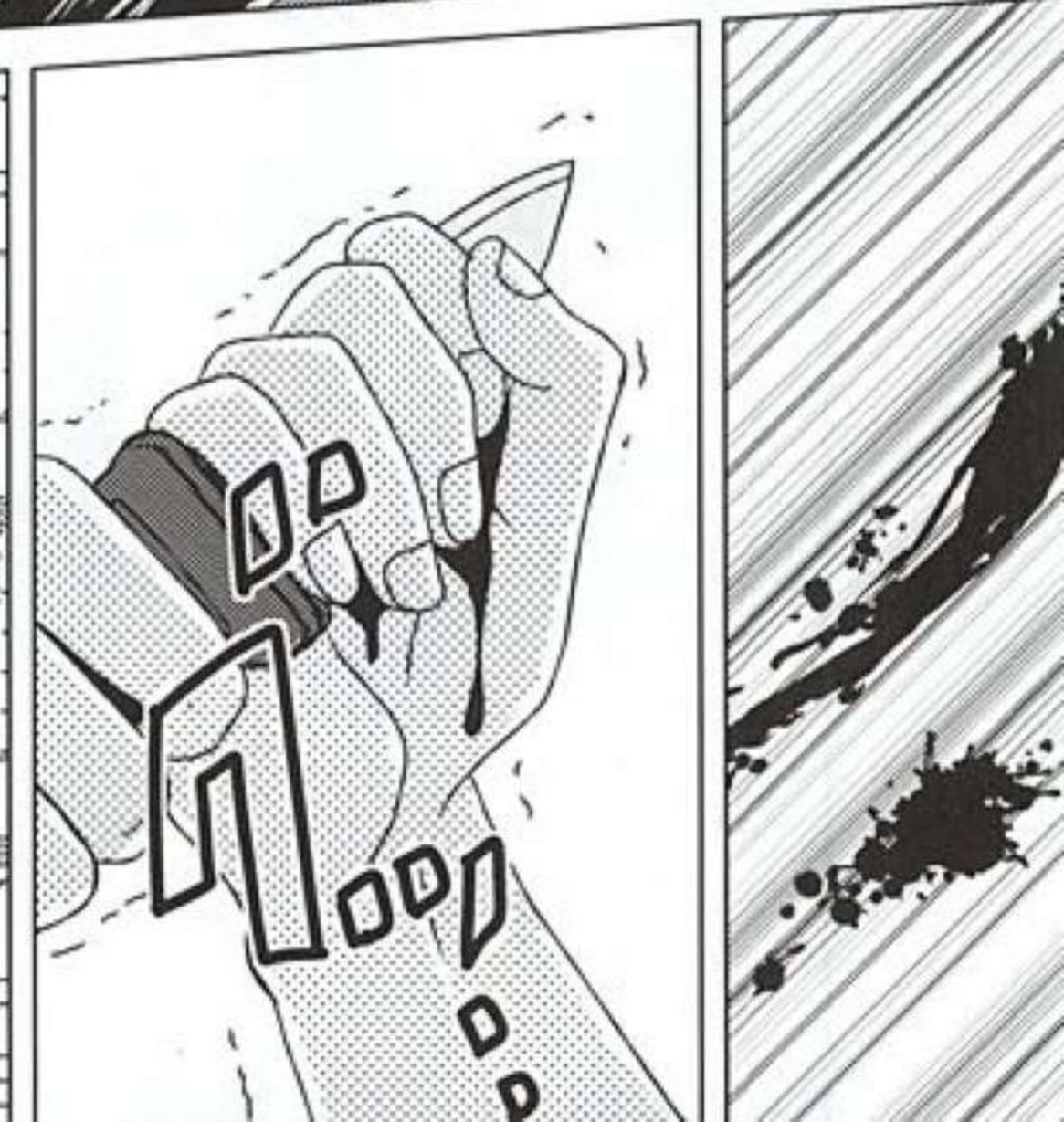
これは俺たち人間の身勝手だと思う

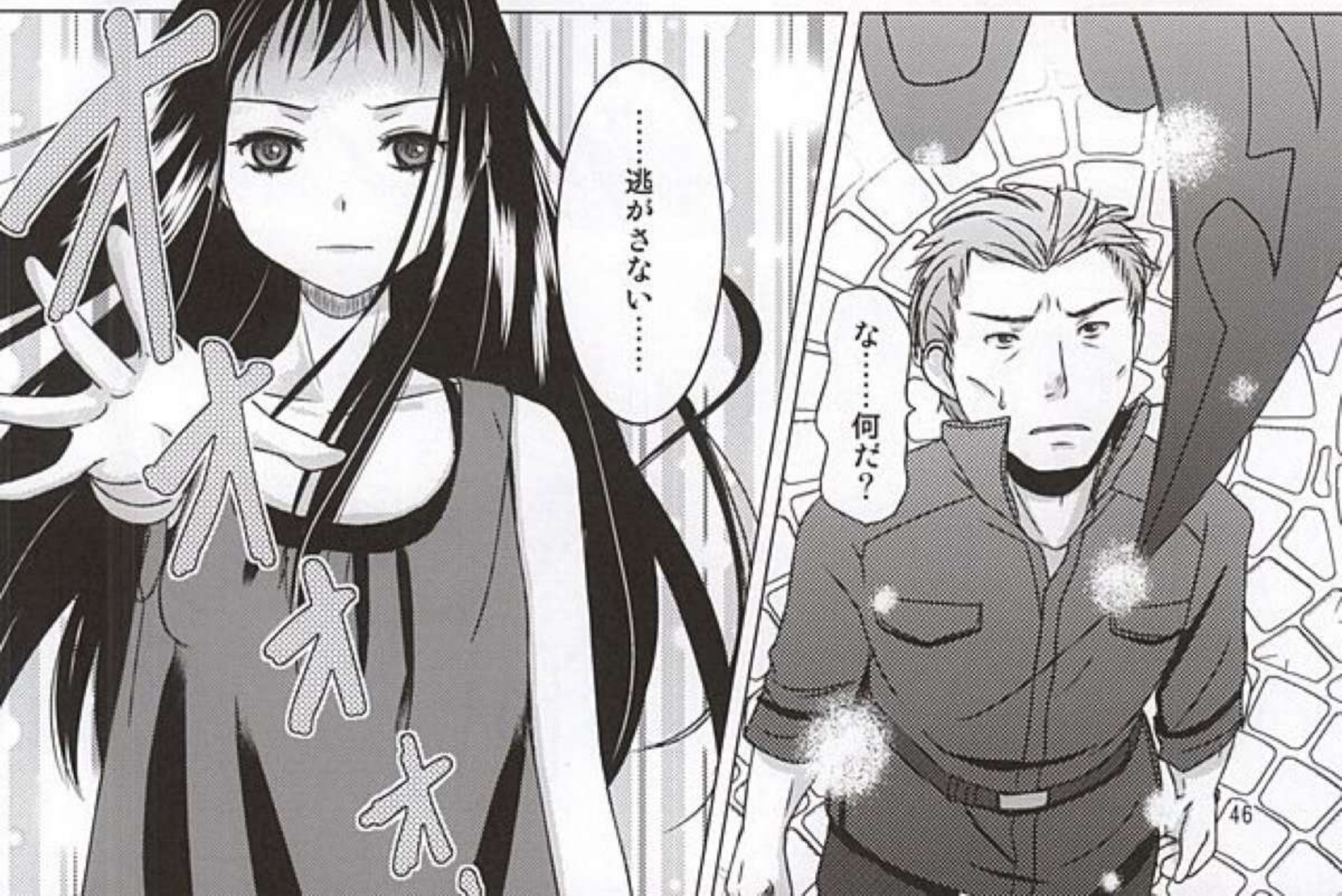
不自由な想いをさせて申し訳ない













シユ……
ジャクリ!!



たっ
助けてくれ……!!



あ……
ハッ
……クロ……ア……?





おい!! その
レーヴァテイル!!

何してる!!



わ……私……



あ……

クロア



動くな!

……クロア……

HARMONIUS 4

inudrill.

